

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ —— ここHOWSで、真実の思考を追究しよう!

2021年度後期 開講講座
11月3日(水・休) 13時30分~(開場13時)
ロシア十月社会主義革命104周年記念集会
 会場=東京・全水道会館4階大会議室
 ドイツ民主共和国(DDR 通称:東ドイツ)
『世界の河は一つの歌をうたう』上映
 (監督=ヨリス・イヴェンス、1954年)
 (製作=DDR(ドイツ民主共和国))

3月5日(土)
2022年国際婦人デー東京集会
 ※詳細は追ってお知らせします。

1、国境を越える人民連帯の道を探る

「万国の労働者団結せよ！」は「共産党宣言」締めくくりのスローガン、「万国の労働者と被抑圧民族団結せよ！」はコミンテルン第2回大会のスローガンだ。こんにち、このスローガンが切実に問われている。それは、帝国主義と不可分の植民地主義をあぶり出さずにはおかない。優出企業・略奪文化財・日朝関係、これらのテーマから、帝国主義と植民地主義の歴史と現状を問い、国境を越える人民連帯の思想を掘り起こす。

- ①**12月1日(水)** **韓国サンケン労組の闘いと連帯**
 講師=大畑龍次(韓国サンケン労働組合を支援する会)
- ②**1月15日(土)** **植民地・占領地から略奪した文化財の返還**
 講師=五十嵐 彰(慶應義塾大学非常勤講師)
- ③**3月19日(土)** **『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』(スペース伽耶)を上梓して**
 講師=康成銀(朝鮮大学校朝鮮問題研究センター研究顧問)

2、「新しい資本主義」はねとばす 戦闘的労働運動の前進を!

この国の労働現場は、労働組合がまったくないか、あっても大方は、資本に屈従する労資協調主義に席けんされている。しかしそれでも、闘う労働組合運動は厳然と存在する。困難をはねのけ闘っている労働組合の過去と現在から学び、労働者として闘う思想をわがものにしていこう。

- ①**11月24日(水)** **コロナ禍のなかの労働運動**
 ——社会を変えるのは労働者だ!
 講師=須田光照(全国一般東京東部労働組合書記長)
- ②**12月15日(水)** **美々卵争議とスラップ(恫喝)訴訟**
 ——労働組合つぶしをゆるすな
 講師=北健一(出版労連書記次長)
- ③**1月8日(土)** **1970年代の労働者文学を読み、考える**
 ——『ルポ闘う全通労働者』(1980年)を題材として
 報告=三上広昭(労働者文学会幹事)

3、国際的視野を培おう 諸国人民の経験から学ぼう

マスメディアは労働者人民の目を曇らせる。資本家階級の隠すことのない階級意識に裏打ちされた「情報」が人びとに連日注ぎ込まれる。帝国主義の攻撃に抗しプロレタリア国際主義を堅持し諸国人民は闘っている。ひとたび苦闘する諸国人民の闘いの真実を紐解けばそこからわれわれは数多くのことを学ぶことができる。

- ①**11月13日(土)** **『もうひとつのアフガニスタンカーブル日記・1985年』(42分)上映**
- ②**12月4日(土)** **サンディニスタ革命の歴史と現状**
 ——2021年11月大統領選を終えて
 講師=クラウディア・ベレス・ロペス ニカラグア臨時代理大使
- ③**1月18日(火)** **世代を継いで社会主義建設を続けるキューバ**
 ——キューバ共産党第八回大会を終えて
 講師=富山栄子(国際交流平和フォーラム)
- ④**2月12日(土)** **朝鮮労働党第8回大会から1年、いま朝鮮は**
 ——代を継いで社会主義を建設する人びと
 講師=金淑美(『朝鮮新報』記者)

4、ソ連崩壊から30年後の現代世界と中国

ソ連崩壊から30年後の現代世界を襲っている米中の予測不能な対立の顕在。なかでも嫌中感情を煽っている根幹には米国の台湾政策がある。十月革命の地における社会主義建設の経験、その要となる計画経済システムの改革に向けた試練から学ぶべき教訓とは? 市場化後の中国の転換プロセスも、社会主義の命運を決する困難な課題に対峙。いま習近平指導部が進める「共同富裕」も未来を見据えた構想のなかにある。

- ①**12月18日(土)** **ソ連崩壊から30年、ソ連における計画経済システムの教訓と課題〈序論〉**
 講師=山下勇男(社会主義理論研究)
- ②**2022年1月29日(土)** **米中対立の現状をどうみるか**
 ——中国共産党第20期全国代表大会を前にして
 講師=岡田 充(共同通信客員論説委員)
- ③**2月19日(土)** **台湾問題とは何か?**
 ——ポスト植民地問題と東アジアグローバル冷戦の角度から
 講師=丸川哲史(明治大学教員)

5、日本の短編小説を読む

講師=立野正裕(元明治大学教員)
 今期は近刊の『日本文学の扉をひらく 第二の扉・踏み越えた人たちの物語』(立野正裕著、スペース伽耶)の合評会をまずひらきたい。本書に収録されている五編の短編はいずれもハウズ講座で取り上げられたものである。第二回以降の三編はプロレタリア文学の秀作であるのみならず、こんにちの変革運動を担う者が依然対峙すべき内的困難および課題を扱っており、熟読し、熟考し、意見を交わすのにふさわしい主題である。
 (開始時間は各回とも午後6時30分)

- ①**12月8日(水)** **『日本文学の扉をひらく 第二の扉・踏み越えた人たちの物語』合評会**
- ②**1月26日(水)** **宮本百合子「乳房」**
 (『一九三二年の春・刻々・小祝の一家・乳房』新日本文庫)
- ③**2月16日(水)** **葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」**
 (『葉山嘉樹短篇集』岩波文庫)
- ④**3月16日(水)** **島木健作「第一義の道」**
 (『第一義の道・赤蛙』講談社文芸文庫)

※入手困難な作品は、HOWS事務局までお問い合わせください。

6、中野重治『むらぎも』を読む

長編小説『むらぎも』は1954年に上梓された。小説の時制は1926年4月から1927年3月に相当する。それは日本プロレタリア運動の興隆期と重なる。主人公・片口安吉は、金沢の旧制高校を卒業して東大に入学、進歩的な学生団体「新人会」の会員となる。「むらぎも」は「群肝」と書き、五臓六腑を意味するように、作中にはさまざまな事象がむらがっている。それらを丸ごと引き受けようとする者には、小説に提起された問題群と現在との繋がりが、切実に意識され始めてくるのではないだろうか。

※このシリーズは、受講生が分担して報告を行ないます。各回の報告者は調整中です。
 ※『むらぎも』は、新潮文庫、講談社文芸文庫で入手可能です。その他のものを含め、版は問いません。

講座の開始時間は、1月12日は18時45分から、他の3回は13時からです。

- ①**11月27日(土)** **範囲:第1章~3章**
- ②**1月12日(水)** **範囲:第4章~6章**
- ③**2月23日(水・休)** **範囲:第7章~10章**
- ④**3月26日(土)** **全体の総括**

7、この人にきく

- ①**11月6日(土)** **満州事変勃発から90年**
 ——清算されない歴史を考える
 講師=額縁 厚(明治大学特任教授)
- ②**12月11日(土)** **在日コリアン学生たちに学びの権利を!**
 ——朝鮮学校「排除」攻撃とコロナ禍に抗して(仮題)
 講師=朴京子(公益財団法人在日朝鮮学生支援会代表理事)

HOWS講座カレンダー 2021年度後期(11月~3月)	
①11月3日(水・休)	ロシア十月社会主義革命104周年記念集会 『世界の河は一つの歌をうたう』上映 講師=額縁 厚
②11月6日(土)	満州事変勃発から90年 ——清算されない歴史を考える 講師=額縁 厚
③11月13日(土)	『もうひとつのアフガニスタンカーブル日記・1985年』(42分)上映
④11月24日(水)	コロナ禍のなかの労働運動 ——社会を変えるのは労働者だ! 講師=須田光照
⑤11月27日(土)	中野重治『むらぎも』を読む 第1章~3章 報告=受講生
⑥12月1日(水)	韓国サンケン労組の闘いと連帯 講師=大畑龍次
⑦12月4日(土)	サンディニスタ革命の歴史と現状 ——2021年11月大統領選を終えて 講師=ニカラグア臨時代理大使
⑧12月8日(水)	『日本文学の扉をひらく 第二の扉・踏み越えた人たちの物語』合評会
⑨12月11日(土)	在日コリアン学生たちに学びの権利を! ——朝鮮学校「排除」攻撃とコロナ禍に抗して(仮題) 講師=朴京子
⑩12月15日(水)	美々卵争議とスラップ(恫喝)訴訟 ——労働組合つぶしをゆるすな 講師=北健一
⑪12月18日(土)	ソ連崩壊から30年、ソ連における計画経済システムの教訓と課題〈序論〉 講師=山下勇男
⑫1月8日(土)	1970年代の労働者文学を読み、考える—— 『ルポ闘う全通労働者』(1980年)を題材として 報告=三上広昭
⑬1月12日(水)	中野重治『むらぎも』を読む 第4章~6章 報告=受講生
⑭1月15日(土)	植民地・占領地から略奪した文化財の返還を 講師=五十嵐彰
⑮1月18日(火)	キューバ共産党第八回大会を終えて 講師=富山栄子
⑯1月26日(水)	宮本百合子「乳房」 講師=立野正裕
⑰1月29日(土)	米中対立の現状をどうみるか——中国共産党第20期全国代表大会を前にして 講師=岡田 充
⑱2月12日(土)	朝鮮労働党第8回大会から1年、いま朝鮮は 講師=金淑美
⑲2月16日(水)	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 講師=立野正裕
⑳2月19日(土)	台湾問題とは何か?——ポスト植民地問題と東アジアグローバル冷戦の角度から 講師=丸川哲史
㉑2月23日(水・休)	中野重治『むらぎも』を読む 第7章~10章 報告=受講生
㉒3月5日(土)	2022年国際婦人デー東京集会
㉓3月16日(水)	島木健作「第一義の道」 講師=立野正裕
㉔3月19日(土)	『康ソンセンニムと学ぶ朝鮮と日本の2000年』(スペース伽耶)を上梓して 講師=康成銀
㉕3月26日(土)	中野重治『むらぎも』を読む 全体の総括

- ◀2021年度後期募集要項▶
- 定員 本科生20名
 - ・全講座25回(各週1~2回程度)
 - ・本科生は、すべての講座を受講できます。
 - ◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座を選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
 - 費用
 - ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)
受講料…前期:25,000円、後期:25,000円
・前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
 - ◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
 - ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
 - 申込方法
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
 - 注意事項
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

◎HOWS付属ゼミナール
 HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できません。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称)
 チューター=山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第1期として、2018年からは第2期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第1期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒唐した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

お知らせ 2021年後期HOWS講座は新型コロナウイルス感染拡大のため、本リーフレットでお知らせした講座の予定が変更になる場合があります。受講は定員20名の事前予約制として実施します。予定変更の際はお知らせします。